

④今からでも遅くない地球温暖化対策

地球温暖化は、私たちが産業や生活の中で使う化石燃料が主な原因です。私たちが今までのように化石燃料を使いつづければ、地球温暖化の進行をくいとめることは不可能です。このままでは気候変動により、私たちが暮らす地球はますます熱波や寒波、洪水やかんばつに襲われ、住みにくい星になっていくことでしょう。熱波や寒波は、冷暖房機器稼働時間を増加させ、エネルギー消費を増大させるという悪循環をもたらし、洪水やかんばつは世界の食料生産に連動し、飢餓や貧困の増加につながります。食料の7割を海外に依存するわが国では、食糧安全保障が今後大きな課題になっていくでしょう。

そればかりではありません。石油資源そのものが有限で、地域的に偏った資源であることから、世界の政治経済を不安定にしています。最近では、イラク戦争や中国、インドといった新興国の旺盛なエネルギー需要によって原油価格が高騰し、ガソリンや灯油の価格上昇を招いています。石油の可採年数は後40年程度とされており、このまま化石燃料に頼り続けることはできないのです。

⑤福生から「ストップ！地球温暖化」を発信しよう

福生市は、2004（平成16）年度、『福生市地域新エネルギービジョン』を策定し、CO₂を2003（平成15）年の排出量に対して2010（平成22）年10%、2020（平成32）年25%、2030（平成42）年50%削減するという高い目標を掲げました。この目標は、いまのところ日本で最も高い削減目標であるとともに、世界の先進国とも比肩できる目標値です。私たち市民、事業者、行政は、この高い削減目標を目指し、努力し、そのことを日本中に発信しようではありませんか。そして、仲間を増やし、地域から「ストップ！地球温暖化」を進めようではありませんか。

⑥地域の自立度を強化していく

本市では高効率型エネルギーシステムを検討していく際に、地球温暖化防止の視点のみならず、地域の自立強化の視点も取り入れ、市内でのエネルギーのベストミックスを基本にしていくものとします。このことを通じて、地域への新エネルギー※の普及に弾みをつけていくものになると考えます。

なお、ここでの地域の自立とはエネルギー面での自立のみならず、地方分権時代の流れを踏まえた地域経済再生の視点も入れています。環境対策や新エネルギーは経済面の問題から普及が阻まれています。地域のエネルギー高効率化を環境と地域経済の両立の契機として積極的に捉え、地元事業者やNPO等の協力を得ながら新たなエネルギーシステムの構築を目指します。

※福生市内では、天然ガスコジェネレーションシステム、太陽光発電、太陽熱集熱器、バイオマスエネルギーなどが中心になると考えられます。